血液内科プログラム

【研修目標（研修内容）・到達目標】

血液疾患（白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・貧血・出血性疾患・血栓症等）の診断、標準的治療から最先端の造血幹細胞移植療法まで経験する事が可能、ＨＩＶ感染症・ＡＩＤＳの診断・治療ができる事、これらを通して全人的内科診療、包括的医療が行える事を研修目標とします。資格取得に関しては、平成 29 年度より新しい専門医制度による後期臨床研修が開始される為、内科基本領域専門医を取得すべく詳細が決まり次第対応することとなります。

［到達目標］

・骨髄穿刺及び生検・腰椎穿刺・中心静脈カテーテル留置等の基本的処置の習得
・末梢血及び骨髄標本による血球形態診断の習得
・細胞表面形質検査・染色体検査・遺伝子検査による診断の習得
・造血器悪性腫瘍に対する化学療法の習得
・造血幹細胞移植療法や無菌室等での無菌操作の習得
・凝固異常症の診断及び補充療法の習得
・血栓形成性疾患の診断及び抗凝固療法の習得
・ＨＩＶ感染症の診断及び抗ＨＩＶ療法（ｃＡＲＴ）の習得
・抗生物質・免疫グロブリン製剤・輸血療法・サイトカイン療法等の支持療法の習得
・症例検討・英語論文抄読等での最新知見の収集ができる
・カンファレンス・関連学会の学術集会でのプレゼンテーション・討論ができる

【レジデントＡ（卒後３年目）カリキュラム】

研修は基本的に日本内科学会認定内科医研修カリキュラム及び日本血液学会の血液専門医研修カリキュラムに基づいていますが、新専門医制度に対応して行います。病棟担当医として入院患者の診療を通した臨床研修が中心となります。また、臨床的、基礎的研究の希望があれば、大学院への入学も積極的に支援します。関連施設での外来等学外研修も可能です。

【レジデントＡ（卒後３年目）の他部署研修について】

総合診療能力のスキルアップのため、総合診療センターで、レジデント A（卒後３年目）期間中に年間を通して、月２回の外来研修を、希望により行うことができます。

【レジデントＢ、Ｃ（卒後４、５年目）カリキュラム】

研修は基本的に日本血液学会の血液専門医研修カリキュラムに基づいていますが、新専門医制度に対応して行います。レジデント A と同様に病棟担当医として入院患者の診療を通した臨床研修が中心となります。また、臨床的、基礎的研究の希望があれば、大学院への入学も積極的に支援します。レジデント C では、希望があれば外来診療に携わることが可能です。関連施設での学外研修も可能です。

【カンファレンス・症例検討会等】

内科カンファレンス（ケースカンファレンス・講演）：隔週
血液内科医局会（ケースカンファレンス・抄読会）：毎週１回

細胞移植検討会：週３回

ＣＰＣ：適時

血友病/ＨＩＶケースカンファレンス：毎月１回

【その他研修要件・６年目以降の体制・関係学会の内容等】

・平成 29 年度の後期研修より開始される予定の新専門医制度と現行の制度との過渡期であり、基本診療領域研修プログラム等の詳細が決まり次第対応していく事になります。

・４年目以降は関連病院、国立がんセンター等の専門施設での研修も考慮します。

・夜間部を含めた大学院進学に関しては積極的に支援します。

・６年目以降の進路は病院助教・助教・大学院・研究生・海外留学・関連病院勤務等があります。

関係学会：日本内科学会、日本血液学会、日本臨床血液学会、日本造血細胞移植学会、日本血栓止血学会、日本輸血学会、日本エイズ学会、日本免疫学会、日本感染症学会、アメリカ血液学会(ＡＳＨ)等

【関連病院】（下線病院は卒後３年目以降の臨床研修として派遣実績のある病院です。）

施設名	責任者/指導者
明和病院	林　邦夫（血液内科部長）
医療法人中央会尼崎中央病院	伊福　秀貴(病院長)、高塚　広行(副院長、内科部長)
医療法人樹徳会上ヶ原病院	大江　与喜子(病院長)、原　宏(名誉院長)
宝塚市立病院	岡本　隆弘(内科部長)、
国立病院機構大阪医療センター	井上　信正(内科部長)
赤穂中央病院	三澤　眞人(内科部長)
ＮＴＴ西日本大阪病院	金　義浩(血液内科部長)
日生病院	中川　雅史(血液内科部長)

【指導医】

主任教授：小川　啓恭（指導責任者）　　准教授：相馬　俊裕

講　師：日笠　聡	講　師：岡田　昌也	講　師：玉置　広哉
講　師：池亀　和博	助　教：澤田　暁宏	助　教：海田　勝仁
助　教：徳川　多津子	助　教：井上　貴之	助　教：丸山　聡

【研修統括者】

助　教：澤田　暁宏

【問い合わせ先】

研修管理委員：澤田　暁宏（血液内科）

TEL：0798-45-6886　　E-mail：a-zawa@hyo-med.ac.jp